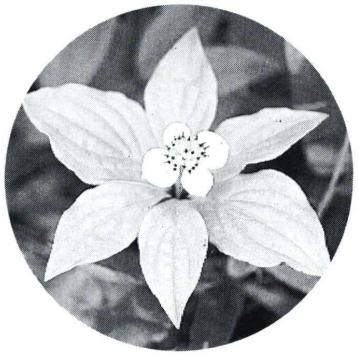
妙法山

1776m・みょうほうざん

「仏に会える山」として修験者を誘う

（昭和60年10月2日）



ゴゼンタチバナ

御来迎の黄金の光を全身に浴びてこの山の頂きに立つと、足元の蛇谷に真綿を埋めたように漂う雲海に自身の影が映る。影の頭の周りには、光輪が輝く。その姿が大日如来に見えることから「仏に会える山」として古来から修験者を誘ってきた。

もう一つ、白山山系に埋納されている仏像三体のうちの一体がこの山にある、という秘宝伝説がある。事実、昭和七年、大聖寺営林署の調査隊が妙法山頂で石を動かしてみたところ、木箱に納まった古銅の小箱を発見したという記録が残る。

さらに白山山系に登って五十年、野猿の研究で知られる金沢市野町三丁目の糸田敬仁さん（六九）は昭和十年、頂上から蛇谷側へ百㍍ほど下った所にあったほこらから修験者の錫杖（しゃくじょう）、短刀一振りと経典などを見つけた。以来、糸田さんはこの山にとりつかれる。「その姿は、鉄カブトさながら、人を寄せ付けない厳しさですが、ニッコウキスゲ、ゴゼンタチバナ、ハクサンシャクナゲの花にカモシカが間近に見られ、飛騨の主といわれる赤グマが住むと言われる自然の王国ですが、石川県にとっては縁が薄い山だった」と糸田さん。

それが昭和三十七年、白山が国立公園に指定されたとき、白山から三方岩岳まで尾根伝いに至る白山北縦走路十三キロが開かれ、岐阜側からしか登れなかったこの山が急に近いものになる。当時、白山・ゴマ平―妙法山間のルートを仲間六人とともに開いたのが、板坂三郎・石川県自然保護課課長（五六）。三方岩岳―妙法山間を担当した岐阜側が開いたのは、しっかり整備した登山道だったのに対し、石川県側の道はただのヤブコギをした程度のもの。「しかし、立派な登山道のある山ほど荒らされるのを見るにつけ、これは賢明だったと思う」と糸田さんは言う。

MEMO

白山北縦走路は、三方岩岳から野谷荘司山や妙法山を経て白山へ向けて続いている。白山スーパー林道の三方岩岳駐車場で降りて北縦走路の一部を利用すれば妙法山までならば日帰り圏内となる。駐車場から三方岩岳まで登れば、あとは高低差があまりなく、立山連峰や白川郷の合掌集落を眺めながらの尾根歩きが続く。駐車場から約三時間半で頂上に立てる。

妙法山日帰り登山ならば、マイカーでもって白山スーパー林道を利用するしか方法がない。林道の利用時間を考慮に入れて行動すること。白山縦走の場合は三方岩岳の交通機関と同じ。